

◇2020年に教育改革を行う意義◇

★求められる、自ら考える力
 少子高齢化による人口減少、国境を越えたグローバル化はもろろん、昨今ではAI（人工知能）の活用も大きく取りだされつつあります。今後10、20年でなんと半分近くの職業が機械に代替されるとも言われています。こうした変化の激しい時代であるからこそ、自分で考え、社会の中で主体性を持って活躍できる能力が重要であるという認識が、2020年教育改革の背景にはあります。

今までの日本の教育では、高校と大学で学ぶことが異なり、さらにはそれらが社会に出てから必要なこととの関連性が低いという問題がありました。そのため、自ら考え、進んで多様な人々と関わりながら問題解決を目指す姿勢などの、真の「学力」を十分に身につけられないまま、社会へ出ていくことに

なってしまうことが、大きな課題であると言われています。

特に、大学受験を一つのゴールと見据えた高校での教育を見直し、社会に出てから夢や目標を実現するために必要な能力を、高校や入学で身につけられるようにしようというのが、この改革の大きな目的です。

★文章を読む習慣の必要性

ではなぜ、自ら考える力を身につけられない子どもが多いのでしょうか。
 本を読むよりも、スマートフォンで文字を追いかけていたり、ゲームの世界に没頭したりする時間の方が圧倒的に長い、そんな日常を多くの子どもたちが過ごしています。本や新聞で文字を読む習慣がなければ、当然語彙や知識は増えません。また学校や習い事で忙しい中、本や新聞をじっくり楽しんで読む機会

U16プログラミングコンテスト

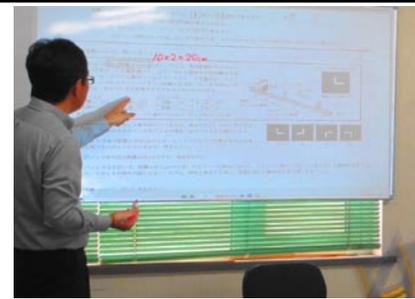
村上さん(11年専)優勝

し烈な頭脳戦が繰り広げられたプログラミングコンテスト

16歳以下を対象にしたパソコンのプログラミング技術を競う第6回「U16プログラミングコンテスト」が14日、市観光国際交流センターで行われ、釧路工業高等専門学校創造工学科1年の村上浩平さんが優勝した。今大会には中学校1年生から高校1年生までの9人が参加した。参加者は事前

に指定されたソフトを使用し、チームでプログラムを作成し、「チェイサー」と呼ばれるフィールド内の進行ルートにあるアイテムを取ったり、相手の進路を妨害する壁をつくるなどして点数を競い合うゲームで対戦。激しい攻防を繰り広げた。2位は釧路北中学校3年の高橋さん、3位に附属中学校1年の村田貴弘さんがそれぞれ入賞した。3

人の目も口も、相対して開かれる全道大会に出場する。この日の大会には出場できなかった村上さんだけが大会優勝だった。村上さんが大会優勝したのを見て、村上さんが大喜びで、プログラムが正常に動いたと喜びを表現した。村上さんは「優勝できてうれしいです。これからも頑張ります」と話した。



10/6 は学力Bテスト対策授業でした。成田さんのお母さんが皆にプリンを！



10/13 等式の変形・角度特講(下5枚) 藤井さん、藤本さんのお母さんから差し入れ。遅い人は楽しく昼食。



- 中3 等式変形&角度
- ① 福士太朗 (1:24)
 - ② 菅原卓誠 (1:53)
 - ③ 田中晴斗 (3:07)
 - ④ 小澤涼香 (3:23)
 - ⑤ 斗内一誠 (3:35)
 - ⑥ 藤井彩華 (4:05)
 - ⑦ 藤本さくら (4:10)
 - ⑧ 後島はづき (5:13)
 - ⑨ 古川心 (6:12)
 - ⑩ 成田くるみ (7:05)



漢検の勉強に妹が！



松井さん、山上さん、富岡君、小澤君、修学旅行のお土産ありがとうございます！



19期生で放射線技師の真由さん。19期生でJR勤務の浦田君、塾の卒業生としてのプライドがあると！嬉しい。



27期生で今年の入試、最後まで諦めずに北陽に合格。皆も諦めるな！



18期生で大学卒業後証券会社に就職した織田君。とても大変だと言っていました。同級生の結婚式で。



7期生で子供も塾の卒業生の美幸さん。時々コーヒー持参で近況報告や子供の進路相談に。

とができるのです。

◇第4次産業革命の時代◇

もう既に始まっている第4次産業革命は社会を世界を激変させます。少なくとも第1次(蒸気機関)第2次(車)第3次(コンピュータ)産業革命までは人々の暮らしを楽にしたり便利にするものでした。しかし第4次産業革命はIT、ロボット、AIが人間にとって代わって仕事をするようになり、その数は現在ある仕事の50%(特に文系の仕事)と言われています。「小学3年生から英語を始める」、もうそんな時代ではないのです。必要なのは読解力です。すでに日本は世界の先端技術から遅れ始めています。皆さんの将来は今の価値観とは全く違うものになっていくはずなんです。今それを意識し、考えなければ取り残される事になります。そのことが分かる「NHKスペシャル」『ニュースZERO』の番組を録画したものがありません。見たい方は申し出て下さい。

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木
				●景雲1・2定期 ●江南定期	●休塾	●中3生土曜特講	◆道コン3年 ◆休塾 ●休塾 ●勤労感謝の日		●富原・別保定期 ●高専定期	●鶴居・富原定期 ●鳥取1・2定期	●附属3年定期(芸体) ●湖陵定期	●休塾	●美原定期	●鳥取3年定期	●鳥取西・共栄3年定期	●景雲3年定期	●休塾 ◆1000分特講 ◆1000分特講	●休塾	●休塾	◆1000分特講	●学力Cテスト ●附属1・2年定期・明輝					●休塾	●休塾 ●文化の日 ●学力Cテスト対策	◆漢字検定 ◆●附属定期	
																	公立高校入試まであと124日												
																	センター試験まであと78日												
																	●11月の予定●												

1. 母親の過干渉～該当するかチェックしてみよう～

過保護と過干渉の違いは？

過保護というのは子供が望むことを必要以上にすること。

過干渉は子供が望んでいるかどうかは関係なく親の思い描く理想に合うように必要以上に干渉することだと私は思っています。

もちろん躰は大事ですが、過干渉は若干過保護と違い、いき過ぎた行為ではないかと思えます。例えば下記のような過干渉な言動はありませんか？

とくに母親は子供と一緒にいる時間が長いので、下記チェック項目にあてはまるものが多いのではないのでしょうか？過干渉かどうか該当があるかチェックしてみましよう。

子供の意思に反して～しなさい～すべきと指示を出す

学校や明日の準備を母親がする（教科書を揃えたり、明日着ていく服を選ぶなど）

宿題や課題を期限までにしたのかチェックをする

朝起こす

勉強を手伝う

進路や就職に関して口出しをし、ある一定レベル以上でないといけないと言う

恋愛や結婚にも口を出す

先回りして世話をやく

上記の他にも色々過干渉な行為はあると思えます。

母親としては全て子供のため。そして子供が失敗や危険を回避し苦労しないようにとやっていることともいえます。

愛情があるからこそ過干渉だとは思いますが。でも本当に過干渉は子どものためになるのでしょうか？

2. 子供への7つの悪影響

2-1. 自立できない・自主性が育たない

母親や父親が常に先回りをして指示を出すという過干渉は、子供は自分で考えて行動をしなくても指示通りに動けばよいということになります。

当然ながら過干渉な父親や母親のいる環境で育てば自立ができなくなる可能性があります。

そして当然ながら自主性も育ちづらいといえます。過干渉で慣れているために常に指示待ち状態です。

このような過干渉な環境に慣れてしまっているとその影響から指示がないとどうしていいのかわからなくなってしまう可能性があります。

2-2. 努力をせず人のせいにするおそれがある

過干渉が行き過ぎて母親が次の試験に備えて、このページとこのページを覚えるのよ。

ここは暗記するのよと父親や母親が指示を出して勉強をさせた場合にはどうなるのでしょうか？

その過干渉な指示がなくなればもちろん勉強はしません。

そして試験の点数が悪ければ「お母さんが教えてくれなかったからできなかった」と人のせいにします。

実は実際にあった出来事です。

この過干渉な親は教科書の暗記させたい部分にマーカーをひき、手作りの問題集作りを中学までずっとしていました。

この母親もさすがに子供が高校生になってこの過干渉をやめたとたんに、成績は下がり、母親のせいにしたそうです。

いつまで子供の勉強を見続けますか？

母親の過干渉の影響でなんでも母親や他人のせいにしてしまう可能性があるのです。

2-3. 自己否定・思考停止

例えば子供が「これがいい」と言い、母親が「でもねこっちのほうが～だからいいのよ」と過干渉に自分が良いと思うほうに誘導する。

そして学校や就職に関しても「○○以上のレベルじゃないとだめよ。」「○○学校/会社だと認めないわよ」という過干渉な発言を父親や母親が小さい時からずっと成人するまでし続けられていたら・・・

「私が意見を言っても聞いてもらえない」「自分の好みを言っても無駄だ」「○○レベルより下の私はダメな人間なんだ・・・」という心理となり、自分を否定的にとらえ自信がなくなってしまいます。（自己肯定感の喪失）

例えば常に勉強に関して父親や母親が過干渉で口うるさく、テストの点もチェック。母親が90点以上でないとならぬと褒めてくれない。

子どもは最初は頑張ります。

でも90点以上取れなかったらどうしよう・・・そしてとうとう90点以下をとってしまったら・・・こんな自分は母親から褒めてもらえない、嫌われる、こんな自分はダメなんだと思ってしまう。

自分の意見を言ったところでそれを受け入れてもらえないわけですから、考えても

無駄だと思うようになり、考えることをやめてしまうようになります。このように過干渉の影響は大きく自己否定や思考停止にさえなる可能性があるのです。

2-4. 失敗を恐れるようになる

本来であれば、子供の時から失敗と成功を繰り返し、学び成長をします。

でもその失敗や危険を回避するように母親や父親が過干渉な対応をしているため、失敗をしたことがありません。

過干渉の影響で、はたからみて大した失敗でなくても失敗をした時に立ち直れないことがあります。

2-5. 委縮してしまう可能性がある

過干渉な母親や父親に意見を押し付けられ、時にはきつく叱られる、ヒステリーを起こされる。

食事の際には躰だと箸の上げ下げ、姿勢をチェックし食事の間中に注意し続ける。

食事が楽しくなくなりますよね。

これらの過干渉が繰り返されるといつ怒られるかと常に人の顔色を窺い母親や父親に対して委縮してしまいます。

過干渉の影響で自分の意見を持ってなく、話すことすら怖くてできなくなってしまうかもしれません。

もちろん躰は大事です。

でも注意の仕方や頻度は考慮すべきではないでしょうか？

過干渉も度が過ぎると子供は家にいても安らぐことができません。

2-6. 神経症や不登校・ひきこもりになる可能性がある

父親や母親がさまざまなことに口だしやチェックをする過干渉が続けば続くほど、影響は大きく無気力になってきて、神経症を発症したり、不登校やひきこもりになってしまう可能性があります。

過干渉の影響から知らず知らずストレスとなり、自律神経が乱れてしまって不眠や頭痛などさまざまな症状を引き起こすことさえあります。

不登校やひきこもりになった場合に本人に聞いたところでどうして学校に行けないのか、外出できないのかわからないのです。

残念ながら不登校やひきこもりの子供の母親に過干渉が多いのも事実です。

よくあるのが、子供のころから過干渉な父親や母親により失敗を回避し受験も勝ち続け、一流企業に就職し負け知らず。

でも実際社会に出てみると失敗することもありますし、自主的に考え、行動することが要求されます。

しかし彼らは過干渉の母親や父親から全て指示だしをされてそれを実行してきたため自主的に考え行動するということができません。

むしろ前述の過干渉の影響にも書いているように指示を与えてくれない人が悪いと思ってしまうし、何か失敗をしても策を練ることができず、自信を喪失しひきこもりになってしまうという大人が増えてきているのが現実問題です。

親の加護があってルールに乗れているうちは良いけれど脱線してしまうと、どうして良いかわからないのです。

このため中高年のひきこもりが増えていとも言えるのではないのでしょうか？

過干渉を止めないといつまでたっても不登校やひきこもりが解決しないとはいえませぬ。

毒親も不登校や引きこもりの原因となります。

過干渉が毒親の行為にあたるかもしれないですね。

2-7. 母子密着・共依存になる可能性がある

常に母親が段取りし、指示をするという過干渉が当たり前の状態で、慣れてしまい、それが心地よい場合には母親と一緒にいるのが当たり前、母親がいなくてもできない心理的に不安になります。

過干渉の影響は大きく、大人になっても母親が気になって仕方なく、デートの間も母親ヘラインしたり、電話したりして、自分より母親が好きなのではないか？と言われて別れてしまったという経験談は実は多いのです。

もしも結婚にまで至ったとしてもすぐに実家に帰ったり、母親が遊びにきたりして結婚相手がうんざりするというケースもあります。

母親が子供が自分の生きがいとなっている場合にはなりやすい傾向です。



毒親とは、子どもを自分の支配下に置き、その人生に有害な影響を与える親を指す俗語。米国の精神医学者スーザン・フォワードによる書籍『毒になる親』から派生した造語で、同書の邦訳版が1999年に出版されて以降、広く知られるようになった。子どもへの暴力的・性的な虐待や育児放棄だけでなく、精神的な虐待や過度な干渉も毒親の特徴とされる。毒親による歪んだ親子関係は子どもに深刻な心的外傷を与え、その影響で成人後も対人関係に問題を抱えたり、依存症に陥ったりして苦しむケースも少なくない。

コトバンクより

過干渉、過保護は学力に大きく影響します。勉強に対しても知らず知らずのうちに依存症になり、自ら考える力や読解力がつきません。脳細胞が活性化しないのです。成績が上がる人とそうでない人には過干渉、過保護が大きく関わっています。